

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	792 上野歴史民俗資料館維持管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本 施策	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	02	文化財保護費
		細目	435	文化財施設維持管理事業
行革大綱の重点事項番号	4	細々目	53	上野歴史民俗資料館維持管理経費
担当部課	コード 450400 名称 教育委員会 生涯学習課	担当者 氏名	福田典明	連絡先 22 - 9681 (内線) 3840

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	・伊賀市に関連する民俗資料及び歴史資料 ・市民や観光客	※対象件数
成果(どうする)	・適正に収集され、展示される。 ・伊賀市の歴史・文化を理解してもらう。	
根拠法令・要綱等	文化財保護法・上野歴史民俗資料館の設置及び管理に関する条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示を行なう。 利用料金の徴収を行なう。 民俗資料の収集・受入を行なう。 保守点検(清掃・消防設備・機械設備・空調機器・エレベーター等)を行なう。 軽易な修繕を行なう。 	
社会情勢 の変化等	伊賀地域の特色である化石の展示を毎年続けている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	伊賀市文化都市協会
2 配置人員	1.0 人
3 年間運営費	6,501 千円
4 市内の 類似施設	柘植歴史民俗資料館、大山田郷土資料館、阿山ふるさと資料館、島ヶ原資料館

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
開館日数		日	目標	359	目標	359
			実績	359	実績	359
企画展示		回	目標	3	目標	3
			実績	3	実績	4

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
入館者数		施設の特色を生かした事業を展開して、市民や観光客に足を運んでもらうか。	人	目標	4000	目標	4000
				実績	3698	実績	5605
				目標		目標	
				実績		実績	

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	6,501	6,501	6,501	6,669	6,669	6,669	6,669	
A の 財 源 内 訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0	0	0	
一般財源	6,501	6,501	6,669	6,669	6,669	6,669		
事業投入人件費(B)	0.1 人	720	0.1 人	720	0.1 人	720	0.1 人	720
フルコスト(A)+(B)	7,221	7,221	7,389	7,389	7,389	7,389		

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必要性	法律で実施が義務付けられている事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業		
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○	文化財そのものの実物展示を行うことにより、市民の文化財愛護に対する意識の高揚が図られる。
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○		
特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対称者以外の第3者にも利益が及ぶ事業			
国や県、民間が同様のサービスを提供している。	○		
事業開始からの目標・目的を概ね達成している。	○		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない。 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】			
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響は大きい。 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】			
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○	展示物を見るだけでなく、展示を企画する側への市民の参画も見られる。
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		【計画に遅れが生じている場合、改善策】
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○	入館者より対価を徴収している。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	来訪者が満足する企画の実施を行なっていく。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 上野歴史民俗資料館独自の企画展示や、三重県立博物館の移動展示の実施、『青い目の人形展』の開催によって、入館者数の増加を見た。

今後の方向性(Action)

評価者氏名 (担当課長)	楨田 ちえみ
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 年間を通して企画展示を行う。また、指定管理者による自主事業を行い、来館者の増加に努める。
現時点における 課題、その他	平成21年度は入館者数が前年度に比べ50%増加した。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	前年度の入館者数を維持または増加するよう、企画展等について検討する。